



山端 博  
(明政一心会)

## 秋まつり練習時の騒音対策は

### ガイドライン作成等で対策する

**問** 今年の秋まつりは4年ぶりの本格開催になると聞いているが、円滑な運営が望ましいのは言うまでもなく、全ての地域住民にとって配慮したものにならなければならない。はやしが付き物である祭りは、とりわけ騒音に関しての配慮が重要であると考えますが、これまで参加団体の練習時の騒音トラブルはないか。

**答** 参加団体が練習時に発する音で市へ寄せられた苦情件数は、平成30年度以降では令和2年度を除き各年度1件です。また、令和4年度の秋まつり終了後、参加団体を対象に十和田商工会議所が実施したアンケート結果では、回答があった17団体で、「これまで近隣住民と騒音トラブルになったことがあるか」との設問に、「ある」と回答した数は10団体です。

**問** 騒音トラブルを把握しているようだが、何らかの対策が必要ではないか。

**答** 参加団体とともに練習期間、時間、ルールなどを示した祭り参加団体ガイドラインを作成することとしています。また、主催者側で消音パッドなどを購入し、秋まつりの練習期間に参加団体へ支給することを考えています。

**問** 統廃合等により閉校となり、閉校後に活用されていない学校施設は時間が経過すればするほど、経年劣化や維持管理費等で民間利用や地域利用が難しくなる。文部科学省の「みんなの廃校プロジェクト」は、廃校の活用事例や、活用を希望する廃校情報の公表等を通じて、廃校を活用してほしい自治体と廃校を活用したい企業等をマッチングさせる取組であることから、閉校後の学校施設の活用に利用しては。

**答** 廃校活用のさらなる推進のため活用していきたいと考えています。



今泉 信明  
(立憲農民クラブ)

## 森林環境譲与税を活用して 植林などをする考えは

### 今後の調査で対応を検討

**問** 豪雨災害の被害を大きくする要因の一つは上流地域の森林の伐採にある。木が無ければ雨水が河川に到達する時間は短く、流入量も多くなることから、伐採後の植林が重要と考えるが、森林環境譲与税を活用して植林などをする考えは。

**答** 市では、再造林率向上のため、森林経営計画等を策定し、計画的に再造林の作業に取り組んでいる林業経営者に対し、補助を行う森林整備事業補助金事業を実施していますが、市の森林経営計画等を介さずに個人単独で森林整備を行った場合、対象外となることから、金銭的負担が大きく再造林につながらないことが考えられます。対象外となる山林に対する森林環境譲与税の活用法について、林野庁が公表している事例集では、独自の補助制度により民有林野の森林整備を実施している自治体もあることから、令和6年度から予定している山林所有者に対する今後の経営や管理についての意向調査の結果を踏まえて、対応を検討していきます。

**問** 特定外来生物アライグマの当市における、直近3年間の捕獲数は。

**答** 令和2年度は31頭、令和3年度は54頭、令和4年度は86頭を捕獲し、令和5年度は5月末現在、既に14頭と、その数は年々増加傾向にあります。

**問** アライグマの生息域は現状どのようになっているのか。

**答** 令和4年度の捕獲状況を地域別に見ると、米田地区で38頭、伝法寺地区で19頭、大不動地区で16頭、切田地区で8頭、藤島地区で2頭、初めて相坂地区で2頭、深持地区で1頭捕獲されました。